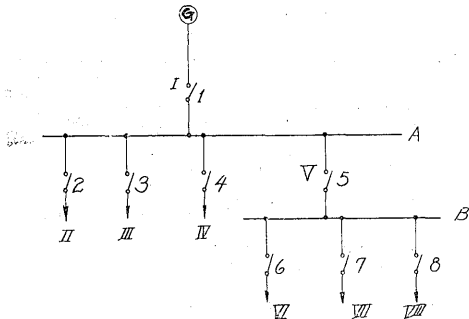


# 特 許 欄

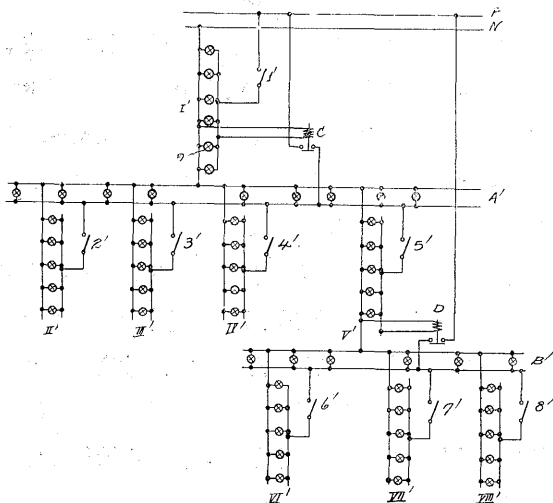
## 照光配電盤の照光装置

(登録實用新案第二〇七八三九號)

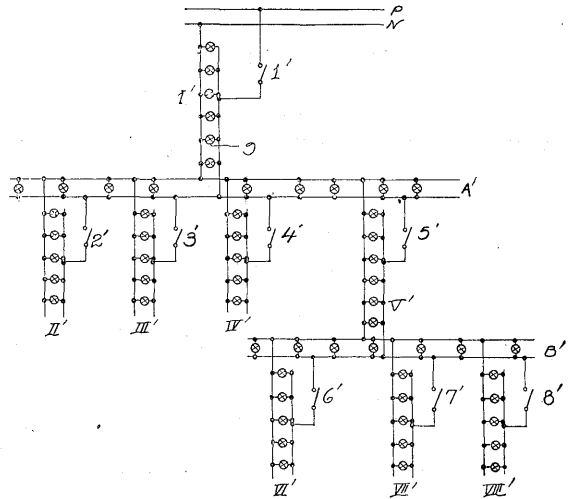
照光配電盤として知られる模擬配電盤の照光装置を、経済的で且融通性に富んだものに改良した考案である。今第一圖に示す様な送配電系統があるとする。(G)は発電機、(A)(B)は母線、(I)乃至(VIII)は多くの線路で、(1)乃至(8)は各線路に挿入された開閉器である。此の様な系統を照光配電盤で模擬するに従来は第三圖の様にした。(I')乃至(VIII')は前記の線路(I)乃至(VIII)の模擬線、(A')(B')は母線(A)(B)の模擬、(1')乃至(8')は開閉器(1)乃至(8)の模擬である。各模擬線及び母線の後ろに(9)の様な電燈が配置され、饋電線(P)(N)に圖の様に接続されてある。線路(VI)に送電するものとせば、開閉器(1)(5)(6)を閉ぢなけ



第 一 圖



第 二 圖



第 三 圖

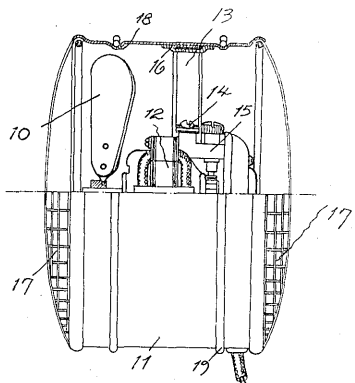
ればならない。之は模擬盤に於て開閉器(1')(5')(6')を閉じた事を意味する。第三圖から明な様に饋電線(P)(N)により模擬回路(I')(A')(V')(B')(VI')が電燈(9)により照明されて、是等の回路が生きて居る事を示す。然るに之では模擬装置中の饋電線(P)(N)に近い部分程大きな電流が流れるから、導線や開閉器の通電容量を大きく設計しなければならない。従つて不経済である許りで然く、送配電系統の増加により模擬装置を増加せんとする場合には、装置の根本的な変更を行はねばならない。

本考案によれば此の困難を簡単に除く事が出来た。それは第二圖に示す様に電燈を複数群に分け、その或る電燈群を、それよりも一層饋電源に近い電燈群に附屬の繼電器によつて饋電源に接続するのであつて、(C)(D)等がその繼電器である。圖の場合電燈群は三群に分けられてある。前述の様に線路(VI)に送電しようとして模擬開閉器(1')(5')(6')が閉ぢたとすれば、回路(I')の電燈が點すると共に繼電器(C)の附勢により、回路(A')の電燈が(PN)から直接に點火される。開閉器(5')の閉結により回路(V')の電燈と共に繼電器(D)が附勢され、回路(B')の電燈が(PN)から直接に

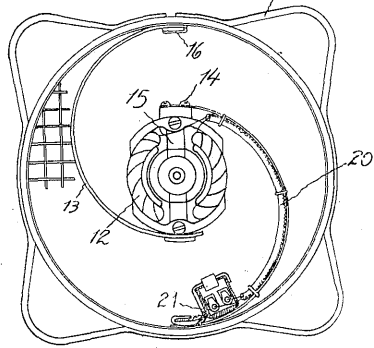
點火される。開閉器(6')により回路(VI')の電燈が點する。斯様に模擬装置中の何れの部分にも過大な電流量を必要としない。又増設等の場合には適當に繼電器を使用する事により、他の部分に影響無しに変更する事が出来る。

**電氣扇(登録實用新案第二〇七八四五號)**

特種の扇面機に關する。第四圖の(11)は支持圓筒で兩開放端に保護網(17)を備へる。(12)は固定子枠が無い電動機で、軸承其の他の用に支持腕(15)を有する。



(13)は電動機を支へる彈性腕で、略半圓形をなし、渦卷形に順次に配列され、一端は電動機腕(15)に取附けられ、他端は支持圓筒(11)の内面に固定される。彈性腕の一端を固定する時、他端は(16)の様に挾持すると都合が良い。(10)が扇風翼で、(20)は接續線、(21)は接續端子である。



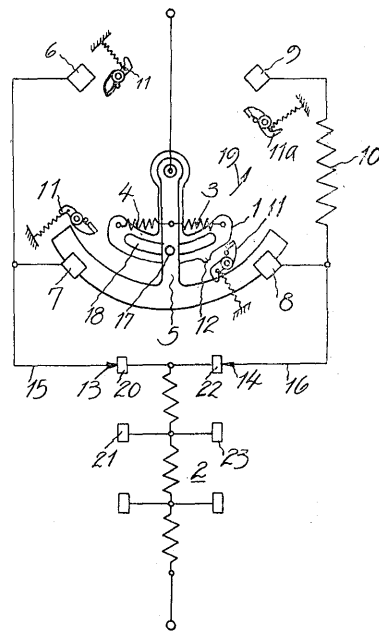
第四圖

(19)は支持圓筒の外側に取附けられた針金枠で、此の扇風機を卓上に置いた場合轉動を防止し、壁或は天井に取附ける時支持用に用いる。本考案では電動機が固定子を有しないから輕量で、従つて弱い彈性腕を用ゐる事が出来、又彈性腕が渦卷形に配置されて居るから、電動機を具合良く中心位置に保持する事が出来る。

**調整變壓器のタップ切換開閉器**

(登録實用新案第二〇九三一二號)

負荷した儘で電壓調整が可能な調整變壓器のタップ切換装置に關する新考案である。第五圖の(5)は跳動



第五圖

開閉子で、固定接觸子(6)乃至(9)に順次に接觸する様になつて居る。跳動開閉子は常は鉤子(11)により運動を阻止されて居る。(1)は緩動操作子で彈條(3)(4)により跳動開閉子に結合され、更に操作子の溝(18)と開閉子のピン(17)が係合する様になつて居る。上記の様な切換開閉装置によつて調整變壓器(2)の電壓を下げるものと假定する。此の場合緩動操作子(1)を矢印の様に廻轉する。彈條(3)(4)に充分蓄勢された頃に、操作子の突起(12)が鉤子(11)の端部に衝突して釋放させるから、跳動開閉子(5)は急速に固定接觸子(7)を去り、(8)(9)を橋絡し鉤子(11a)によつて再び阻止される。此の時變壓器(2)の調整端子(20)は無電流となり、操作子に聯動するタップ選擇器(13)は端子(21)に移動される。次いで操作子が更に廻轉を續けるから、前記と同様にして開閉子は急速に固定接觸子(8)を去り(6)(9)を橋絡する様になり、抗抗(10)を経て補償電流が流れる。次に接觸子(6)(7)が橋絡され、ば變壓器の電壓は一タップ丈低下され、タップ(22)は無電流となり、選擇器(14)はタップ(22)より(23)に移される。最後に再び圖示の位置を示める。

本考案に於ては鉤子(11)の掛外し作用により、開閉子の正確なる位置での停止及び急速動作が確實に行はれる。更に固定接觸子と開閉子の銕着、或は彈條の切斷等により不慮の災害が生じ様とする時、ピン(17)と溝(18)の係合により尙ほ切換装置の機能を續行し得る利點がある。



\*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する  
商標または登録商標である場合があります。